ようなことは起らなかった

いては校舎も

頌徳祭と慰霊祭 4月1日花ぐもりの下に頌徳祭が行なわれて、 先哲に対して感謝の誠を捧げ4月3日には戦没者

の慰霊祭が桜吹雪の中で執行されて国難に殉じた

域住民の意見等考慮される た設計にあたっては関係地

か。実習田を全

設計に不備があったのではると聞いている、これらは

科水にめいわくをかけてい張により、近所の民家の飲暖により、近所の民家の飲暖により、近所の民家の飲暖により、近所の民家の飲暖により、近所の民家の飲暖により、近時の民家の飲食により、

今後こう

調査して善処した

査して善処したい。運動

万復

の話によると汚水が流出す

退をつぶされ、

又附近住民

教育長 東郷中の運動場拡

将来指導してゆきた

校の実習田も一部つぶされ

ても自立経営の出来るよう

れるが、

て補修がされている、

の工費をも

使用は不可能である。

画されて四年、着々とその

農業構造改善事業は計

の農家にも更に広げてゆく

るが、参加農家以外

頼している。将来十分考慮

上設計した

応の構想をたて県の指導を うけ設計は建設課の方に依

ために、県の単独補助事業

実施地区内農家と地区外農 関問 農業構造改善事業の

関問 人口過そ問題とこ

で見られるが、この農村婦

よる農婦病問題が新聞等 よる農村婦人の過重労働 のとおりでした。

少

年

を

明

る

<

育てよう

一月定例村議会 墾地のみ 林原野を開墾して拡大を 云報生 教育長 学校の建設計画に される意志があるかお尋 教育委員会、関係地域

たが、その問答の要旨は次 一般質問が行なわれまし 四日は休会、十五日 日に閉会されまし 議案を審議、 みかんを基幹作目とし造成ととにしている。寺迫には

政計画により着々と計画さ 内でも不参加の農家の今後実施地区外の農家並に地区 績をあげているが、これが 鶴野内地区の養蚕はその実 の営農指導をどのように考 成果をあげつつあり、特に 事である。拡張直後決潰 る。例えば東郷中の体育 の学校の建設は長期財 るか産業課長に伺い こを中 より無利子で農家の負担を 植をしておりこれらの資金 てやっているが、迫野内、 指導している。養蚕につ 業により、同じ様な方向で の南九州防災営農事業とし 出来るだけ少なくしてや については農業改良資金に ても現在鶴野内を中心に 改善事業と併行して融資事 て十三ヘクタール程度構造 田野の栗園にしてもこ 深、坪谷と逐次新 思う。そこで予算をみるの 先般伺った際、課長は農家 るために目的集団等育成に の増大を如何様にするかと る。この地区外農家の所 家の所得の格差は将来増大 力したいと答弁されたと てゆくことは明確で

これが労働省略について農

階に至って

道問題なり将来の課長の考

である。所得の増大につい指導についてはそのとおり 産業課長目的集団の育成 いて具体的に説明願いた 度は約五十万 っている。これが理由に 農業振興費において昭 減額にな 産業課長人口過その問題 えを伺

労働が強いられることは御 乏している。原因は材料の 要で従来もそうであるがそ一費の値上げについて伺いた 説のとおりでこれについて値上げと承わっているが、 は例えば作業の共同化が必四十二年度の本村学校給食 因で全国的な問題である。 めに残された婦人に過重な一十分であるがビタミンが欠 一家の主が出稼ぎに出るた 他産業との

所得格差が原 問 先日の新聞報道による 給食について、カロリーは と県下二百九十の学校完全

ははっきり表明 何時までも遷延

しかし 場合燃料費を村費で負担 によると六、七百円では栄養協議会で検討された結果 ことで決った様である。 郷村は七百五十円程度であ も百乃至百五十円はあげ 程度の栄養はとれると思っ よると六、 の運営協議会は小学校工 つ、中学校七百円とい 六百円でも七百円

実を結ぶならば都市の背後 産業課長 そ菜園芸を村が し上げた。今後客観情 に主産地を造って指導 ければならない、 農協の経営は十九年前から る国富町あたりですら夜は 村は海岸地帯から離れてい ばこれらを指導してゆか 外のそ菜に熱心な者があれ肝要である、構造改善地区 る意慾を高めることが最も パンガスを燃やし この再建を中心に組合員 れるべき問題と思う。 園芸係の件につ 農協の技術指導費と いる状態で、海岸地 課長が今頃将来を考えて、 関問 先の質問に対し産 課長はまだその時期でな 村の世帯をあづかっている 将来をながめて実行と

新産都市は失敗であ

いま

いになったが、以上

4

年一回総会を開き、

るが、会の内容を説明する 円の村の補助がなされてい 昭和三十七年以来毎年一万 徴収して運営されている。

、時期尚早という言葉が

げるかと

うことが問題

して上げて投資の効率を

結局所得を如何一月五円、年六十円の会費を

て話し合いを進 住民課長 母子福祉会は毎

なければ最低生活は出来な ある、この事業が実現する であるが、これは調査費で の交付がなされるとのこと 業も調査費として七百万円 は十年先のことである。 責任ある課 る。 様な考えで事務を進めて

歩の管理をどのように考え より新産都市建設も漸次高県の拡域行政の呼びかけに 次に母子福祉会の育成に 村有林の適正なる運営 以びでつっていな ば補助についても検討した この補助金は昭和 ば補助についても検討した 当来ないということであれ るか、入会林野の の増減、会費の増 一地の整理等必然 長法の施行による 有林約千七百町 るが、合併を前 げられる問題と 出席等物品の 上昇により、 十七件(事業資金二、就職 ては県の福祉資金の制度を 事業量が拡大され、運営が 件の貸付を行なっている。 就職仕度金一件、計二十一 四十一年度就学資金三件、 仕度金二、就学資金一四) 活用し、四十年度貸付件数 会を催している、運営とし 師を招へいして研修しその 他年一回中学卒業生の激励

み合わせ所

様なことで予算の数字が して指導が消極的というこ もあるが、県の事業で四 みてさして残すことのでき うものは或る期間を経過 いる。理論的には首長と いて度々質問をうけ御 ふりかえって

の労働過重問題、それと
左様なことで今行政判断を る場合もあり得ると思う。 った方向、考え方で行なっ 当らなかった面に日を当て てゆくことが行政面の日の したならば誰か代わって違 生産者に補助するような考 この問題ととり組み、適地 なしビニールハウスによる 術員を入れて村民の指導を を調査して試作をなし奨励 の意志はないか。農協に技 次に村長にこの際伺い 産業課に園芸係を置き

とで五畝分の種芋を申し込一重の者の負担は容易ならな んでお 里芋を試作したいと のは住民の福祉をどの り、園芸に無関心で

っかけに農民の農業に対す 農業構造改善事業をき 教育長 本村は相当 助もあり、 県に対する補 には国庫のは

費が要る。保護家庭と紙 たことがあ 代があ なり、運賃を差し引くと農 いるそ菜にしても高度の りは僅かなものと 拓組合の方でも る。県の奨励し の指導に苦慮し 的に生産過剰と しかし生産が 財産区の公共施設以外には 世間は出来ないことになり になるか。この問題は今

とになり、その収益はその

技術が必要で農協も五カ年

をたてており、

後相当慎重に検討しなけれ

この資金の

世話から奨励等ばならない問題と思う。

がある。こ カ年農務主任という職にあ て、水野課長のもとで一 うことで検討さか、財産区を設置して管理らなければ価値の際にそっくり持って行く に出荷された時ら住民に返すかこの三つの とり組んだ経験 先輩の理想をもって運営さ 車で日向市、延 しているのでは 十四年から五 議会を設けて管理されるこ 区を設置となると財産区の 償で提供したものであるか してゆくか、或は住民が無

持つ家庭は月二千円の

村長は手一杯で そ菜栽培を何も し責任をもって 出しをしてお のために残した財産であり 法の中でどう取り扱うこと 管理をど いう御質問であるが、現行管理をどのようにするかと

先輩が地域住民の福祉

か実際にはむつかし

村長 村有林の適正な育成で、議に未解決のものもあり、議でしていうことは、私の村である。境界その他の一つである。境界その他に未解決のものもあり、議 合併を前提としてのこれが は御承知のとおりである。 力して貰って来ていることれ、これらの問題解決に努 会にも特別委員会を設けら 販売等による収入で、 子福祉会の今後の育成を 住民課長に伺いたい も実費にも充たない手当と の様に考えて うことが何われるが、母 られるか



ような者は離農し、 定した生活が出来ると

次に特産野菜の問題に

菜で成功している者も 外の農家の園芸作物の指導 があるかどうか、村内でそ あり痛感した一人であ て販売している体験発表 水田活用そ菜を農協を通 会における一主婦の発表に 農業構造改善事業実施地区 は無理であると言われるがのと思う。課長は早出野菜 にが研究されたかどう この事業は出稼ぎ喰い 任も実施中のようで てこの海上輸送を計画 産業課は果してやる気 いて調査を要望してお 農業構造改善事業以

む上に問題がある。

ならないと思う。海上輸送 は十分考慮の上指導に当 を県は試みている。 御意見 関間 学校完全給食の指導 迫はみかんを主産地として い様にとり組ませなければ して他産地の価格と取り い、本村としては早出し

るが、試作地を造って試 質問を終る。 は寺追

産業課長 一般会計か



ひと 咲き 桜のな の落つ と見る るを 0

(次号へ続く)

適正な指導計画をたて

用についての指導につ

六、新生活運動の推進をは

が御来任下さいました。御や退職になり、二〇名の方

展におつくし下さいます うお願いいたします

動で二一名の先生方が転任

末の教職員の定期異

転任、御退職になりました

をはかる。

体育施設設備の充実

休憩時の遊びに留意

通

道

徳

を

守

3

プ等の指導につ

登山、水泳、

る

心のかん養につとめ

尽力いただき誠にありがと 先生方は長く本村教育に御

申します。御来任の先生方

うございました。厚く御礼

(東郷小) 転出

渡辺啓毅先生

県議会議員

黒木

博

三六二七

夏江麻

七二二 四

七

歌を詠進すると、

しくは著しく類似

発表された歌と同一若 (注)一人で二首以上詠

毛筆でなくともさしつ

田今報義隆義生、忠美

一五三十

までに新聞、雑誌その歌会始の行なわれる日

の理由ない代徴

筆の場合さ えありません

五七

高千穂町向山南小

人間性の高揚と奉仕

学習指導要領によ

をはかる。

五、教育財政の健全な運営 た実を図ると共に、既設 充実を図ると共に、既設 で記載の発備 で記載の整備

学習指導の改善につと

テストを実施し、そ

につとめる。

グループ学習の充実

昭和四十二年度の努力点

五、

める。

科学、技術、産業教育

四、青少年の補導の強化を

機的な運営につとめ

各種団体と学級の有

の充実をはかる。

学校管理の適正を図

ロ 教職員の使命観と遵 の厳正を図る。

健康教育の振興をはか

携につとめる。

運動を推進する。

子供を明るく育てる

青少年補導機関の連

につとめる。

業自営者の育成と確保

現職教育の強化をはか

次計画をた

充実をは

身体検査の結果の教

社会体育の振興をはか

につとめる。

導につとめる。

学校体育の適正な指

の振興をはかる。

「家庭の日」の理解

家庭教育、幼児教育

保健体育施設設備の

実をは、

一人一研究を推進

安全教育の徹底をはか 育的措置につとめる。

動を促進する。

社会体育指導員の活

社会体育指導者の養

教育

委

員 会

道徳教育の徹底をはか

につとめ交通事故絶無交通法規の理解と実践

交通教室を特設し、

成につとめる。 化につとめる。

化、能率化、正確化を確立し、その合理を確立し、その合理

実習の徹底をはかる。

農業教育において農

画的経営につとめる。

成強化につとめる。

子供会、親子会の育

生活環境の純化につ

基礎的実験、観察、

学習園、実習園の計

能率化、モデー

村民の教養の向上、健康 かりもって産業の振興、 生活文化の向上、社会福 生活文化の向上、健康

る。

かる。

石田千鶴先生 新田小へ 弓削満先生 土々呂中へ

(東郷中)

河野鎮子先生

七ツ山小

(越表小)

(坪谷中)

防

災害復旧費

債 備

予 備 費 才 出 合 計

課何係

(例示)

費

費

費

消

公

赤江中

かる。

合社会教育活動により、

高揚につとめる。

宅習の指導につとめ

公民館を中心とする総

かる。

主独立の個人の育成を期 い、強い意思を持った自性、積極性、持続性を培

自主性、協調性、創造

本村の村民性に鑑み、

業の尊さ、勤労の徳を身 自覚を持った国民で、職により、日本人としての

つけた社会人の育成を

祉の進展を期する。

送施設

学校図書館、学校放

ない、心身共に健康で しく日本を愛する国民

校教育、社会教育を本村の実態に即応し

昭 国の教育方針に遵 和四十二年度 東郷村教 育 方針

とめ、公民館活動の促進一、公民館の施設設備の充

公民館活動の促進

会

教

育

大衆文化、

の充実をはかる。 全授業の確保につとめ 事の適正化をはかり完 学力の向上をはかる。 域社会の純化につとめ 連携をはかる。 会・各種機関の緊密な 学力の実態に立脚し 学校·家庭·地域社 をはかる。

設設備の充実をは

段設備の充実

をはか

って来ましたので掲載いたします

東海三県ふるさとの会から次の書面と写真が

(坪谷小)

海野正則先生

土々呂小へ

(坪谷小)

山口景蔵先生

(福瀬小)

原田照文先生

新任

井上三男先生

(福瀬小)

退

黒木義和先生

黒木克己先生

門川小

化指導につとめる。 治、生産、学習の一体地域住民の生活、自

新しい村造りとして

お

部落公民館の運営組

教育活動の正しい運営

態度の養成につとめ 基礎教材の徹底をは 父兄の教育的意欲の 化をはかる。 進につとめる。 社会教育団体の育成強 営と、自主的活動の促 つとめる。 SAPの育成強化に 団体活動の正常な運 会員意識の高揚につ

家庭教育学級の振興をは 青年学級、婦人学級、 中央学級の充実をは 作ら御安心下さいませ。

に待った春も東の間に去り 十二年度に集りました皆さ に待った春も東の間に去り 十二年度に集りました皆さ と思います、私達故郷を遠 村報にお願いします故元気 と思います、私達故郷を遠 村報にお願いします故元気 と思います、私達故郷を遠 村報にお願いします故元気 と思います、私達故郷を遠 村報にお願いします故元気 と思います。私達故郷を遠 村工年度に集りました皆さ お過ごしでしょうか、待ち になって大笑いします。四お暮しの東郷村の皆様如何 つの間にか山陰べんで無中静で美しい風 光の 中で 郷の山々、幼い頃の話にい かならず出るのがやはり故一ております。 **下ら御安心下さいませ。** かると思います、五月の集命頑張って居ります故他事 回の折りは写真でお目にか 働く者達で時折の集りに りに多勢こられる事を祈っ

(越表小)

鈴木キョ子先生 退 職

矢野信雄先生

南方小から

宮崎市江平小へ

津留哲朗先生

松田希農典先生

中平スミ先生

西臼杵郡上組小から

西日杵郡大菅小から

七、文化財の開発、保護、 活用をはかる。 国土美化運動と全戸 国旗掲揚運動の推進に

那須キョ子先生

延岡市川島小へ

後藤正俊先生

黒木年枝先生

富高小から

塩見小から

太田ミチ先生

日向市財光寺小

護をはかる。 文化遺産の実態調査 文化財に対する啓蒙

高田百合子先生

村中田浩二先生

宮崎和子先生

都城市沖水小から

延岡市南小

成合幸子先生

消費文化

一 下さいまして本村教育の進いますがどうで長く御在任 だより 「東海三県ふるさとの会」のつどい

見印事	県	県知事・県議会議員選挙投票率と得票数							
			1	男	女				
	小	野	田	85.91	85.71				
	寺		迫	77.99	73. 45				
	福		瀬	78.20	77.12				
	鶴	野	内	88.02	84.69				
	迫	野	内	90.00	87.74				
-	田		野	92.00	89.38				
椎	羽		坂	88.08	81.98				
椎葉	仲		深	88.36	78.29				
	坪		谷	73.21	80.23				
保	越		表	79.58	77.90				
	下	渡	111	84.91	66.69				
五	八	重	原	83.12	83.15				
0		計		82.74	80.74				

れました。

詠進の方法

未発表の歌であるこ

一人一首限りとし、

、昭和四十三年歌会始

他の出

版物、年賀状等

宮内

庁

により発表された場合

「川」と定めら

西臼杵郡上野小から

昭和四十三

年

歌会始のお題及び詠進要領

昭和四十二年一月十二日

(越表分校) 岩切孝嘉先生 (寺迫小) (坪谷中) 森本明子先生 森本三男先生 奥野末子先生 河野政継先生 川越美代子先生 川辺順三郎先生 南那珂郡瀉上小から山口重勝先生 田野中から 田野中から 日向中から 新任 新任 昭和42年度東郷村 般会計予算 議 費 娯楽施設利用税交付金 1.500 務 費 生 臨時地方特別交付金 900 費 衛 生 方 公 付 65.000 費 労 分担金及び負担金 1.749 働 費 使用料及び手数料 1.846 農林水產業費 15.787 費 37.335 出 費

18.524

25.000

2.879

21.900

234.037

和田喜三郎先生

清水憲司先生 島田平八郎先生 中村寿夫先生

諸塚中

岩永留美先生

北川村松葉中

(東郷小)

安成優子先生

産

越

収

収

合 計

金

入

債

財

繰

諸村才

西日杵郡桑野内小から 7.456 29.748 16.467 4.020 6.255 64.775 378 21.857 3.660 3.144 9.938 1.000 234.037

職業は、具体的に詳し くこと。例えば、何業 何商、何会社何役等の 役職名、官公職名所属 部課等。学生は、何学 を何学科何学年等。ま た、無職の者(主婦を 含む。)は、元の職業又 は世帯主の元の職業を は世帯主の元の職業を

椎葉村栂尾小から

鵜戸小から

オ	入	才	出
国民健康保険税	9.700	総務費	2.406
使用料及び手数料	10	保険給付費	32.429
国庫支出金	21.909	保険施設費	859
県 支 出 金	1	基金積立金	286
財産収入	299	予 備 費	50
繰 入 金	2.000		
繰 越 金	2.000		
諸収入	111		
才 入 合 計	36.030	才出合計	36.030

一面にお題と歌、左半面二つ折りにして、右半二つ折りにして、右半

な)、生年月日、職業に住所、氏名(ふりが

を書くこと。

(注) 自分の詠進のほか

添えること。

筆をすると、全部失格でない他人の詠進の代

となります。

き、雅号等を用いない

こと。

に他人が代筆してもさ 点字で詠進し又は半紙 点字で詠進し又は半紙 にも失格となります。 白紙一枚を用い、毛筆 白紙一枚を用い、毛筆 で自書のこと。ただし 海外から詠進する場合 月上旬に発表します。 ありましたら、直接、 田 郵便のあて先は、「東京中央郵便局区内宮内庁」とし、封筒に「詠進歌」と書き添えること。詠進歌は、送村の際、小さく折って対入してさしつかえあ 宮内庁式部職あてに、 宮内庁式部職あてに、 が、都道府県庁又は市 か、都道府県庁又は市 選者の氏名は、本年八 て下さい。 りません。 十月十日までのものは 瀬送の場合は、消印が 九月一日から十月十日 までとする。ただし、 有効とします。 等) 無職(夫は何業、夫 無職(夫は何業、夫 元何学校長、元何商無職(元何会社何役 等 何県何市立何病院何 教諭 何省何局何課何係長 何県何町立何小学校 科看護婦

オ	入	才	出
国民健康保険税	9.700	総務費	2.406
使用料及び手数料	10	保険給付費	32.429
国庫支出金	21.909	保険施設費	859
県 支 出 金	1	基金積立金	286
財産収入	299	予 備 費	50
繰 入 金	2.000		
繰 越 金	2.000		
諸収入	111		
才入合計	36.030	才出合計	36.030